



配達に向かう「兵庫県はぁ〜とふる福祉号」。

送迎に、納品に、若者が輝く明日へフル稼働。

洲本市の本町商店街に、古民家を再生したレトロなたたずまいの「米田家食堂」があります。ここは障害者の就労支援を行う洲本福祉朋和会の事業所で、利用者5名、スタッフ3名という体制(令和2年10月末現在)で運営しています。その大きな特徴は、利用者にとってお店での就業経験とともに絵画などの創作活動の場となっていること。外部講師を招いてのワークショップなども実施しており、利用者がのびのびと才能を発揮しています。

令和2年6月に兵遊協から寄贈された「兵庫県はぁ〜とふる福祉号」は、そんな活動の“足”として活躍中。利用者の送迎はもちろん、洲本市内のパチンコホールに賞品用の手作り焼き菓子を配達するなど、まさにフル稼働の毎日です。

スタッフでサービス管理責任者の田中さんは「おかげさまで、みんなの活動範囲が広がりました。これからは遠くにスケッチに出かけるなど、ますます重宝しそうです」と、感謝の言葉を述べられました。



「米田家食堂」の店内。訪れるお客さんが事業所利用者の作品に触れる場ともなっています。



一般社団法人 洲本福祉朋和会
就労継続支援B型事業所 米田家食堂
〒656-0025 洲本市本町7丁目2-25

